

世界に冠たる長寿社会となったわが国が、高齢者数の急激な増加とこれによる社会保障費の増大をどうコントロールするのか。社会保障制度改革は、長らく国政の最重要テーマの一つとなっている。

筆者も加わっている政府の社会保障制度改革推進会議は、団塊の世代が75歳以上になる2025年を境目として、今後、経済・財政との関連、地域・まちづくり、多様な働き方、セーフティネット機能などを柱に議論を進めることとしている。しかし、いまだ取り残されているのが「終末期医療」の問題である。

現在、日本の平均寿命は世界一であり、高齢化率も25%を超えている。これにともない死亡者数も増えており、14年は約120万人

## 終末期医療のあり方

となった。25年には160万人を超えると言計されており、まさに「多死時代」の到来となる。

かつてみどりの場所といえは自宅が中心で、1960年にはその割合は約70%であった。それが現在では約80%が病院で亡くなっており、みどりが身近でなくなってきた。終末期がどのような状態か知る世

代は少なくなり、まして、家族で「死」や「みどり」について話をする機会もなくなっている。

わが国では、老衰や病気で終末期を迎えた高齢者の病棟では、点滴や経管栄養を付けることが一般的となっている。口から食べられなくなったり、認知症によ

る嚥下困難（食べ物のみ込みにくくなる）になったりすると、同僚などの人工栄養を行いつつ、5年、10年と寝たきりになっていく高齢者も多数いる。

こうした理由の一つには「延命至上主義」がある。医学教育の中では、患者を一分一秒でも長く生かすことが教えられてきた。確かに若い人に多い急性・重症

あると思われる。このような問題意識で、患者は専門家と勉強会を行ってきた。終末期の人工栄養による延命は、世界的にみると必ずしも当たり前のことではない。むしろ、自分で食べられなくなったときに、介護者が無理に食べさせることや胃瘻や点滴などの人工栄養で延命を図ることとは非倫理的であるとさえ認識されている国がある。

この問題を意識して、患者は専門家と勉強会を行ってきた。終末期の人工栄養による延命は、世界的にみると必ずしも当たり前のことではない。むしろ、自分で食べられなくなったときに、介護者が無理に食べさせることや胃瘻や点滴などの人工栄養で延命を図ることとは非倫理的であるとさえ認識されている国がある。

本人が食べられるだけ、飲めるだけにして、点滴や経管栄養を行わずにいると、亡くなる数日前まで話すことができ、穏やかな最期を迎えられる。アメリカ、オランダ、オーストラリアなどでもスウェーデンと同様に、終末期の人工栄養は行わないことが一般的であるようだ。

本人が食べられるだけ、飲めるだけにして、点滴や経管栄養を行わずにいると、亡くなる数日前まで話すことができ、穏やかな最期を迎えられる。アメリカ、オランダ、オーストラリアなどでもスウェーデンと同様に、終末期の人工栄養は行わないことが一般的であるようだ。

# 延命治療の議論が必要

例えば、スウェーデンでは、口からものを食べられなくなってきたら約2週間のみとられている。食べられなくなってきたときに人工栄養を行わないと脱水や低栄養が起こる。専門の医師に聞いたところ、このようになるとBエンドルフィンというホルモンの分泌や血中の

これらのことを踏まえると、終末期にどのような医療を選択するか、自分自身で選べるようにしていくことも大切ではないだろうか。現状では、自分の意思

を家族などにきちんと伝えてある人は少なく、また、本人が延命治療を希望していないことが示されていたとしても、あいまいであったり家族や親戚の反対などにより、延命治療が行われる場合も多いと聞く。極めてデリケートな問題であるが、本人の意思の尊重という意味では、あらかじめ自分の希望を文書による意思表示として示して署名しておくという仕組みの普及も必要だろう。



—内藤絵美撮影

これらのことを踏まえると、終末期にどのような医療を選択するか、自分自身で選べるようにしていくことも大切ではないだろうか。現状では、自分の意思

を家族などにきちんと伝えてある人は少なく、また、本人が延命治療を希望していないことが示されていたとしても、あいまいであったり家族や親戚の反対などにより、延命治療が行われる場合も多いと聞く。極めてデリケートな問題であるが、本人の意思の尊重という意味では、あらかじめ自分の希望を文書による意思表示として示して署名しておくという仕組みの普及も必要だろう。

欧米で行われていることを、文化的な背景や考え方の違う日本でそのまま取り入れるべきではない。しかし、世界の先頭で超高齢化時代を迎えているわが国では、この終末期医療の問題を医学界のみならず、倫理面からも法律面からも深く議論を開始すべき時期にきていると思ふのである。